

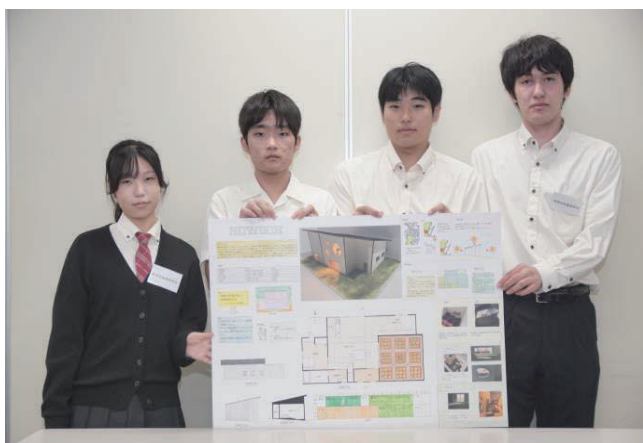
第15回 高校生の建築甲子園 静岡県予選大会

本会青年企画委員 小野田 知矢

秋晴れが心地よくなり始める 10 月中旬、今年度も建築甲子園の時期がやってまいりました。参加されます高校生、担当の先生の皆様には、昨年以上のハイレベルな作品を提出していただき、本当に感謝する次第です。

今年度のテーマは昨年へ続き『地域のくらしーまちに住む・地域に開く住まい』になり、住居系の入ったテーマになりました。まちや住む人、職業や地域などを自ら設定し、どのように暮らしているのか想像しながら作品を作り上げていくのは大変でもあり、楽しかったと思います。新しい形で住居とまちが共存する提案もあり審査員も驚いていました。ぜひこの経験を生かして今後に繋げて頂ければ幸いです。

審査は、建築家：栗田仁様、静岡理工科大：田井幹夫准教授、静岡県くらし・環境部建築住宅局：鈴木義彦局長をお迎えし、松下好宏審査委員長のもと7名の審査委員にて執り行いました。審査の流れとしては、まず作品が提出され、一度事務局にて審査委員の皆様が集まって頂き、じっくりと作品を見て頂きます。そこから静岡県予選大会までの間、各作品の評価する点等を何回も確認しながらまとめ、静岡県予選大会を迎えます。決して建築甲子園 静岡県予選大会は即日による評価を下していない事を知っていただければ幸いです。高校生、審査員共に本気が見られて感動しました。優勝の天竜高校、全国で健闘を祈ります！

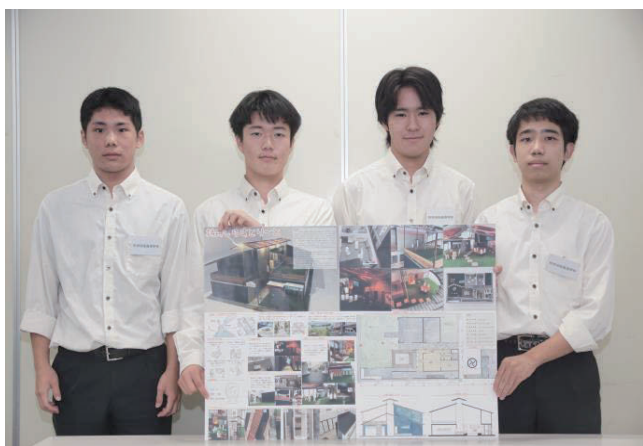


作品名 シン・丸子

静岡県の理念の1つである「ふじのくに美しく、品格のある農村の創造～誰もが住みたい、訪れたい、選ばれる しずおかの農村～」が、現代の日本社会では、少子高齢化によって、農家・農村が衰退してきている。静岡県駿河区丸子では、高齢化や農村問題に加え、地域内のコミュニティーの崩壊や地域の安全性も課題になっている。さらに、丸子は比較的、それらの問題解決が必要とされている。そして、丸子では「地域でできることを地域で」「住んでよし、訪ねてよし」という目標が掲げられている。そこで、私たちは、「放課後こども教室」×「農業」の一戸建て住宅を提案します。

静岡県立科学技術高等学校 チーム名 3年生Aチーム

監督 横瀬 朋彦先生 選手4名

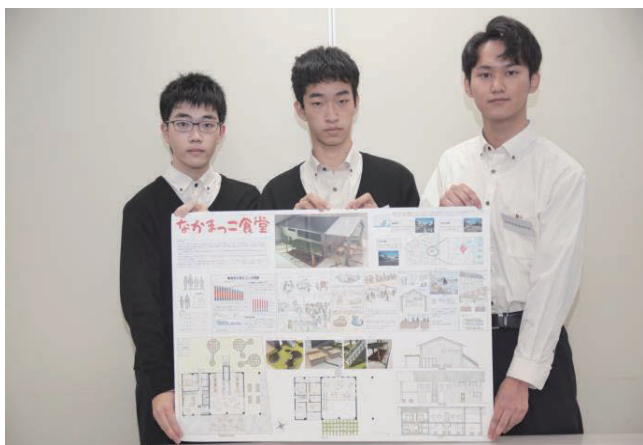


作品名 持舟

かつて「持舟」と呼ばれ、明治以前から続く漁業により活気ある港町として栄えてきた用宗。シラス漁を中心とした漁業が営まれてきたが、近年は発展が乏しく町から活気は消えかけている。そんな中この町は観光地として新たに町を盛り上げようとしている。しかし、外側の海沿いに展開されている観光客向けの店舗は、ジェラート屋や古着屋など若者向けのものが殆どで、用宗とは脈絡がない。そこからは「空回りするまち」という印象を受けてしまう。それに対し、町の内側の懐かしい町並みは空き家が増えてしまったことにより、景観が失われつつあり、「置いていかれたまち」の姿が残っている。そんな用宗を外側の店だけでなく、古き良きコミュニティーのある地域全体で盛り上げる場所にする職住一体の戸建ての家を提案する。

静岡県立科学技術高等学校 チーム名 3年生Bチーム

監督 横瀬 朋彦先生 選手5名



作品名 なかまっこ食堂

日本有数の港町焼津、その港 焼津港は、水揚量・金額ともに日本屈指です。しかし、焼津は、人口の大幅減少の予測・単身世帯の増加で地域のつながりが弱くなってしまいます。そこで、市民と観光客がともに関わり合うことで新たな焼津の魅力を発信します。

静岡県立科学技術高等学校 チーム名 2年生チーム

監督 横瀬 朋彦先生 選手3名